

# 彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, March, 2006

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

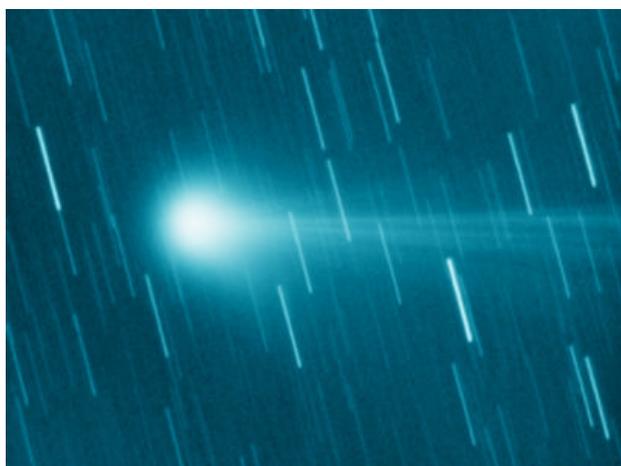
## 3月の状況 (佐藤)

C/2006 A1 (Pojmanski) (写真 a, b)

3月4日、oaa-comet メーリングリストに熊本県の宇都宮章吾氏から「OAA-Comet の皆様おはようございます。熊本の宇都宮です。今朝(3月04日05時15分~20分・JST)のC/2006 A1 (Pojmanski)の眼視報告です。移動性高気圧のはりだして快晴の中で、久しぶりに、A1を見ることができました。青白く集光の強い本体と、線状のイオンテイルが視野をはみ出しています。大気減光のためでしょうか、肉眼では、見えませんでした。双眼鏡を少し振動させながら、イオンテイルの長さを見てみると、視野2個分近くあります。週末で晴天に恵まれたため、これからたくさんの、画像、観測報告が各地より届くと思います。明日も晴れそうです。」と彗星の様子が詳しく伝えられた。

続いて、上尾市の門田健一氏から「取り急ぎ、今朝の画像をコンポジットしました。」と(写真 a)の画像が送られ、更に「...観測だけで済ますつもりだったのですが、測定用に10秒露出を始めてみると、明瞭なイオンテイルが写ったので、連続撮像したものです。コンポジットしてみると、頭部が凄まじい写りで真っ白になりましたので、DDP(デジタル現像)を強く掛けました。...」と説明が加えられた。

また、3月5日には新潟県十日町市の村上茂樹氏から、「...この冬は多忙なうえに、悪天つづきでしたが、ようやくどちらからも解放されつつあります。ようやく今朝、ポイマンスキ彗星を見ることができました。46cm68倍で尾が約2度と見ましたが、光度も尾の長さも正式に計測していません。門田さんの写真や下元さんの写真では、コマから右下に向かって幅広の尾が見えます(タイプ I の尾と思われる)。これは46cmではっきりと見えていました。」と尾はタイプ I のほかタイプ II の尾が見えていることを知らせてきた。



(写真 a) C/2006 A1 (Pojmanski) 2006,03,03  
2006 Mar. 3.830 UT exp.10s x80 25cmL + CCD  
メトカーフコンポジット、擬似カラー  
埼玉県上尾市 門田健一氏



(写真 b) C/2006 A1 (Pojmanski) 2006,03,08  
04h 00m (UT) exp. LRGB 560/140/140/140 sec  
20cm Schmidtcamera f/1.5 + CCD  
© Michael Jäger and Gerald Rhemann

73P/Schwassmann-Wachmann 3 (写真 c、d)

先月この月報で分裂核が見つかったことを報じたが、その後 MPEC 2006-E32 によると、H 核、J 核、K 核、L 核が E. J. Christensen (Mt. Lemmon Survey) によって観測された。更に、MPEC 2006-F22 では、P. Birtwhistle (Great Shefford) と Christensen により M 核と N 核が、MPEC 2006-F33 では、R. A. Kowalski と Christensen (Mt. Lemmon Survey) によって P 核、Q 核、R 核、S 核まで見つかった。

【更に、4月3日の MPEC 2006-G10 によると、T 核、U 核、V 核、W 核、X 核、Y 核まで観測されている。】

これら分裂核のほとんどが B 核から分裂したものと思われる。ただ、N 核 (2006 年) を A 核 (1995-1996 年) に結合してみると次のように計算することもできた。

Orbital elements:

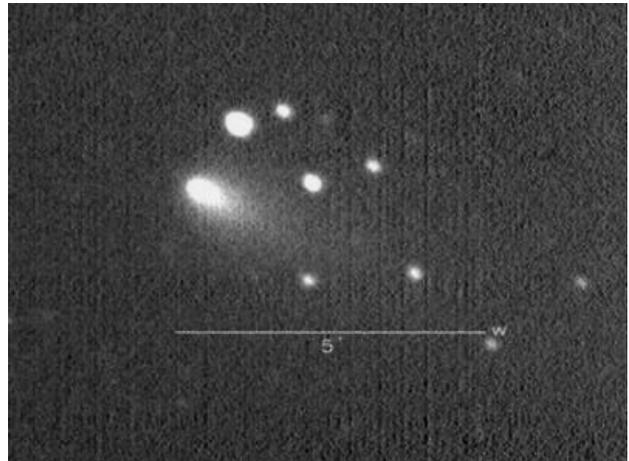
73P-N/Schwassmann-Wachmann 3

Epoch 2006 May 25.0 TT = JDT 2453880.5

T 2006 June 8.25400 TT

			P	Sato	Q
q	0.9391611	(2000.0)			
n	0.18381957	Peri. 198.76145	-0.02931511		+0.98219254
a	3.0634319	Node 69.90006	-0.88995022		+0.05888452
e	0.6934284	Incl. 11.39733	-0.45511452		-0.17841086
P	5.36				

From 71 observations 1995-2006, mean residual 0".70. Nongravitational parameters A1 = +2.35 +/- 0.31, A2 = +1.1691 +/- 0.0923.



(写真 c) 73P-C/Schwassmann-Wachmann 3 2006, 03, 25 (写真 d) 73P-B/Schwassmann-Wachmann 3 2006, 04, 01

1h 7m ~ 33m (JST) Double exp. 60cm L + Acros 100 Film 3h 21m 30s ~ 27m 36s (JST) exp. 60s x5 25cmL + CCD

芸西天文台 関 勉

長野県長野市 大島雄二氏

次の眼視観測がある。

C/2006 A1 (Pojmanski)											
2006	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Mar.	2.82	5.2	2.5	7	0.8°	268°	2/5	3/10	25×10cmB	佐藤裕久	高度 13.5°
	2.85	5:	5	-	-	-	3/5	3/5	25×15cmB	中村正光	中央集光、尾
	3.85	5.0	3.5	8	5°	-	-	-	25×15cmB	宇都宮章吾	16× 7cmB 併用
	4.82	5.3	3	7	-	-	3/5	5/10	20×10cmR	松本敏一	
	4.83	5.2	-	8/	-	-	-	-	10× 7cmR	吉田誠一	

2006	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
	4.87	4:	5	-	30	-	3/5	3/5	25×15cmB	中村正光	中央集光、尾
	4.88	5.5	7	7	2°	-	3/5	5/5	14×10cmB	岩城好高	
	7.83	5.6	4	7	1°	260°	2/5	8/5	60×20cmR	関 勉	
	14.81	5.8	6	7	-	-	4/5	-	10× 7cmR	上原貞治	月明り
	17.80	6.4	3.5	7	-	-	4/5	6/10	10× 7cmB	佐藤裕久	月明り
	29.77	8.7	-	-	-	-	-	-	60×20cmR	関 勉	
	30.77	8.8	-	-	-	-	-	-	60×20cmR	"	

#### 73P-C/Schwassmann-Wachmann 3

2006	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Mar.	4.82	12.4	1.1	6	-	-	-	-	144×40cmL	吉田誠一	
	5.61	12.1	1.0	7	-	-	-	-	144×40cmL	"	
	29.77	10.6	-	-	-	-	-	-	60×20cmR	関 勉	
	31.66	9.6	1.4	6	-	-	-	-	36×40cmL	吉田誠一	

#### 73P-B/Schwassmann-Wachmann 3

2006	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
	5.62	13.8	0.5	5	-	-	-	-	257×40cmL	吉田誠一	
	24.75	13.1:	1.2	4	6	240°	-	-	170×46cmL	村上茂樹	
	31.67	11.9	3.0	7	-	-	-	-	144×40cmL	吉田誠一	

その他発見された彗星は次のとおり。

#### C/2006 CK<sub>10</sub> (Catalina)

2月4.43日 UTに Catalina スカイサーベイのコースで発見された小惑星状天体 2006 CK<sub>10</sub> が C. W. Hergenrother によってコマと尾が見える彗星状であることが報告された。(IAUC 8682, 2006 Mar. 2) その後の観測から長楕円軌道であることがわかった。

#### C/2006 E1 (McNaught)

3月11.74日 UT、R. H. McNaught は Siding Spring サーベイの画像から約 5 のコマと北西に伸びのある彗星を発見した。(IAUC 8688, 2006 Mar. 16)

#### P/2006 F1 (Kowalski)

3月21.49日 UT、R. A. Kowalski は Mt. Lemmon スカイサーベイの画像から少し集光がある約 8 のコマで p.a. 265° に細長い彗星を発見した。(IAUC 8692, 2006 Mar. 24)

その後の観測から 10.2 年の短周期彗星であることがわかった。

#### C/2006 F2 (Christensen)

3月23.33日 UT、R. Hill は Mt. Lemmon サーベイのコースに拡散状で丸いコマのある彗星を発見した。(IAUC 8692, 2006 Mar. 24)

その後の観測から 43 年あまりの周期をもつ彗星であることがわかった。

#### P/2006 F4 (Spacewatch)

3月26.35日 UT、R. S. McMillan は Spacewatch スカイサーベイの画像から拡散状で p.a. 280° に 6 の尾のある彗星を発見した。6.9 年の短周期彗星であることがわかった。(IAUC 8695, 2006 Mar. 30)

その他比較的明るい彗星は、C/2005 E2 (McNaught)、C/2004 B1 (LINEAR)、P/2005 XA<sub>54</sub> (LONEOS-Hill)、C/2003 WT<sub>42</sub>(LINEAR)、32P/Comas Sola などであった。